



題字 藤原田 親

No.

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0033
東京都千代田区浅草橋2-2-3
日中ビル5階
電話 03-5830-2140(FU)
FAX 03-5830-2141
http://www.jfc-net.jp
E-mail:jfc@jfc-net.jp
TEL 03-5830-2141
FAX 03-5830-2141

日中友好協会
岡山支部
〒709-0034
岡山市北区下伊福
西町1-53 民生会館1F
TEL: FAX 0862-250-1806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市坂町西通2-461-45
TEL: FAX 0866-451-7860

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net/
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



中国帰国者問題写真と資料展① ―多数の人々の協力により開催―

日中岡山支部 小林軍治

日中岡山支部は、4月26日から28日まで岡山市役所一階ロビーで十四回目の標記展示会を開催しました。

展示内容は、次の六点です。

総社日本語教室のみなさん



一、岡山県満蒙開拓団とは

竜爪・七虎力・大主上房・浩良大島を紹介(写真と文章は青木先生が作製)

二、中国残留孤児国家賠償請求訴訟のあゆみ

東京地裁提訴(2002年12月20日)、岡山地裁提訴(2004年2月20日)、神戸地裁判決(2006年12月1日)、東京地裁判決(2007年1月30日)、及び配偶者支援の院内集会を展示。最後に、現在取り組んでいる中国帰国者2世が笑顔で暮らすための法改正を」と訴える内容。

三、中国帰国者の介護に希望の光を

深刻な中国帰国者の老後と介護問題の現状を述べた上で、岡山市内の介護施設の取り組みを紹介。

一つは「ころの里やまさき」で働く山中さんの訪問介護の様子。(青木先生が取材)

二つは「ほり」の日常生活とクリスマス会、日中米子支部との交流。(井堀夫妻、スタッフと高杉さんが作製)

四、日中国交回復50周年と内山完造

50年前の国交回復時の新聞記事の紹介。井原市芳井歴史民俗資料館に岡山支部が寄贈した内山完造の直筆の額(日中友好・和平共存)の紹介。

五、総社日本語教室のあゆみ(西森さんが作製)

設立から今日までの活動を展示。28日には、総社から郊外研修の一環として、講師・受講生9人が参観。

六、日中文化活動の紹介―友好の心を育む

太極拳(青木正美さん作製)、中国百科検定、中国語講座(真田支部長作製)を展示。

三日間で延べ約150人が、参観しました。

参観者は、例年通り(1)旧満州国からの引揚者及びその関係者。(2)日本語教室の講師・受講生。(今回は、芳田・長岡・総社教室)(3)共産党市議団などです。今年の特徴としては、鬼木市議が大塚県議など多くの人々に参観を呼びかけてくれたことです。

26日にはKSB(瀬戸内海テレビ)、27日に岡山民報の取材がありました。KSBは、26日の午後6時30分頃に放送されました。27日28日には、テレビを見て参観に来た人が数人いました。

今回は、事前の写真撮影、資料作製、前日の会場準備、当日の当番、片付けと多くの人々の協力で開催することができました。なお、前日の会場設営、最終日の片付けを

はじめ、多大な協力をいただいた福祉援護課のみなさんにお礼を申し上げます。

次に、アンケートの一部と感想文を紹介します。

“ちやうどロシアによるウクライナ侵略と重なり、多くの惨劇がダブります。戦争はその後に長く辛い人生が待っているのです。早く平和的に解決してほしいです。市内に帰国者の方が過ごしやすい介護施設がある”

※裏へつづく

説明する井堀風才さん(メガネの男性)



のを知り、皆様の活動に敬意いっ
いです。”

鬼木のぞみ

“ 鬼木議員から市役所での展示を
お聞きし、青木様にご説明頂いたの
で、展示だけより本当に良く理解が
出来ました。歴史を学ぶ事で、当時
の方々の大変な生活や、戦争で人間
ひとりひとりの人生が苛酷な状況
になり、その後日本での生活も大変
なものとなりました。二世の方々の
がんばりが光であり、私たちも忘れ
てはいけなさと感じました。”

鈴木千恵

林潤市議のラインへの投稿から

“ 私の投稿で見えているかもしれ
ませんが、こんな記事を書きまし
た。”

岡山市役所ロビーでの「中国帰国
者問題 写真と資料展」を見てきま
した。2008年から開催され、14
回目です。

中国残留日本人孤児の問題は今
なお残る、日本の侵略戦争の傷跡で
す。

終戦時に取り残され、日本人孤児
としての苦難があり、帰国後は言葉
や習慣、生活の問題がありました。
今は帰国者が高齢化し、介護の問題
が深刻化しています。子ども時代の
思い出や生活経験は中国です。日本

語が不自由な方もいます。デイ
サービスで日本の童謡を歌われ
ても、合いません。そこで岡山
にも帰国者への対応を充実させ
た介護事業所ができていていること
の紹介もありました。

大人になってから一世とともに
に帰国した配偶者や二世にも苦
労が続いています。

市役所においでの方には展示
を見て、知っていただきたいと思
います。”

林潤

最後に総社日本語教室から参
加された加百さんからの感想文
です。

“ 中国帰国者問題写真と資
料展」を4月28日(木)に総社の
日本語教室9人(講師4人受講
生5人)で研修の一環として見学
に行きました。

受講生の中国での幼児時代や
若かりし頃の写真を見たり、満
蒙開拓団関係の記事を読むと、
事柄の重大性や開拓団として中
国に行かされた人々の歴史を肌
で感じるように思われます。

中国帰国者と彼らを支えてた
たかつてきた歴史を忘れることな
く、新しい明るい時代、社会につ
なげていきたいものだと感じまし
た。”

加百靖典

4月24日(日)

能楽堂ホール

Tenjin9

ーウクライナの痛みと
ささやきに耳を澄ます
ー

というタイトルで、チャリ
ティ演奏会がありました。

定員は120名という
ことでした。

当日はホールの前
に長い行列ができてい
ました。

出演: Kateryna カテリーナ

ウクライナ民族楽器“バンドゥーラ”奏者

〈プロフィール〉

ウクライナ・プリピャチ生まれ。

生後30日の時にチェルノブイリ原発事故に被災し、
一家は町から強制退去させられる。

6歳の時にチェルノブイリ原発で被災した子供たち
で構成された音楽団「チェルボナカリーナ」に入
団後、海外公演に多数参加。

日本にも何度もコンサートに招聘され、その時に
日本の素晴らしさに感動し、19歳の時に音楽活
動の拠点を東京に移す。

現在、日本に2人しかいないバンドゥーラ奏者の
1人として、国内外のさまざまなコンサートで公演
活動を展開中。

ホームページ <https://www.kateryna-music.jp>

カテリーナさんは来日16年になるそうで、日
本語が大変流暢です。自分で楽器を演奏し、
唄い、解説もされます。

ロシアの侵攻がとてもしョックで、演奏会もキ
ャンセルし引きこもっていたそうですが、友人た
ちから、貴女にしかできないことがあるでしょう、
と説得され、単独での演奏会を始めたそうで
す。

バンドゥーラは弦楽器として、最も弦の数が多
い楽器で、彼女の使っているものは62本の弦
があるということでした。

柔らかく繊細な音色で、特に今回彼女が選択

した曲は、もの悲しい響きの曲が多かったので、
心に染み入るようでした。

ウクライナの音楽のテーマには母への思いとい
うものが多いそうで、今回も愛する母へ、つまり
祖国への思いという曲がたくさん披露されまし
た。本当は明るく楽しい曲もあるのですが、今
はそのような曲を演奏することができません、と
おっしゃられていました。

会場にはウクライナから避難されてきた彼女
のお母様もお見えでした。

チケット代は全てウクライナ大使館を通じて寄
付されるということでした。 真田

次回の新聞発送作業は
6月1日(水)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

池田
坪井
小林
竹内 袈